

まちづくり懇談会内容【公開用】

日 時：令和 4 年 6 月 27 日（月）18：30～20：01

場 所：総合福祉センター「しゃるる」大ホール

出席者：8 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 懇談

（1）町長 2 期目の政策について（資料①、②参照）

（2）自由懇談

4. その他

・ 栗山町職員倫理条例の施行（資料③参照）

・ 税の免除（資料④参照）

5. 閉会

《懇談内容》

【自由懇談】

町民：3 点質問があります。1 つ目は道路の 4 車線化についてですが、車の通行がスムーズに、危険な箇所がないようにということで計画されていると思うが、4 車線化されると車の交通量が増え、車も走りやすくなる。先日も町内で中学生の交通事故があった。歩行者を優先できる、安全に通行できるような交通環境を整えていただきたい。現在においても栗山中学校から国道へ出る交差点については、歩行者と車両の信号を別にする歩者分離方式など、中学生や高校生、小さい子供も含めた中で計画してほしいです。2 点目に介護学校・高校魅力化ということで、苦しい中、色々な施策を推進していただいていると思います。引き続きご尽力いただければと思いますが、特に女子野球同好会のことでは、私は朝に野球部の子たちから毎朝挨拶してもらい元気をいただいている。個人的に女子野球についてはあまり関係がなかったが、そういった子供がいるということで親御さんとか学校の先生をはじめ子供たちも素晴らしいと思う。こういったことが野球部だけでなく、栗山高校で誇れるようなことが増えていってほしいと思う。女子野球部に限ったことではありませんが、町外から来てくれた野球部 2 人をなんとか 3 年生になった時には栗山高校女子野球部のチームとして出場し、最後の試合で泣いてもらえるようご尽力していただきたいと思います。3 点目ですが、災害に強いまちづくりということをうたわれておりますが、私が見聞きする中では道内や全国で災害を受けた自治体には防災監を採用しているところがほとんどであります。また、道内に限っても防災監を採用して町長や副町長へ災害対処など直接進言できるポストがある。また、防災計画や訓練を計画することについても町の職員の方が行っていると思いますが、継続的に行うため知見を兼

ね備えた方を採用することもできるのではないかと思います。

町長：1点目の国道234号の4車線化の関係であります。町民の皆さんの交通安全対策、そして交通渋滞の解消ということもあり、20年来、国へ要望してきた案件であります。開発局とのすり合わせの中で、まず危険な交差点を改良・拡幅をし、それを繋げて4車線化にしていくということによってようやく始まったというところです。そのような中で中学校の交差点も危険な交差点7か所の1つに入っています。私自身もその交差点の危険性は十分に認識しておりますので、交差点改良を実施する際には、ご提言いただきました歩者分離方式なども開発局と協議し、子どもたちの交通安全を守ることが最優先でありますので、しっかりと対応させていただきたいと思っております。栗高女子野球部については栗山に住んだことのない子が町に来て本当に一生懸命頑張っていると思います。それを指導していただいている監督、そして学生を支えていただいている多くの町民の皆さんがいます。町をあげてこういった方々を受け入れしていく町を目指していきたいと考えております。これは生徒確保の肝となる政策になると考えています。最後にご提言ありました防災監ですが、やはり防災専門知識の持った方の職員採用も重要なことと思っております。私自身、どのような対策を講じるか、避難指示、命令等も含めて最終判断をしなければいけない立場であり、その時にはしっかりとしたアドバイス等をもらえる方がいれば心強い。現在は防災担当がおり、身近なところでは栗山警察署、そして我々の地域を守っていただいている北恵庭駐屯地の自衛隊などもすぐに駆け付けていただける体制となっておりますので、当面は色んな連携体制をとりながら、いつ起こるかわからない災害に備えて進めていきたいと思っております。いま色んな災害が頻発しておりますので、その対応ということでご提言のあった防災監の設置についてはこれから検討させていただきたいと思っております。

教育長：介護福祉学校と高等学校との連携ですが、現在高等学校の方では高校改革という名のもとに急ピッチに教育課程の内容の変更をしていただいています。その内容の大きな一つとして本町は福祉のまちということで高校1年生から3年生で3単位、1単位あたり35時間ですので3年間で105時間を福祉に特化した授業を行います。そこに結び付けるために小中高というキャリア教育というのを6年前から行っています。ここを繋いでいこうと、まずは栗山の特色として栗山の子供たちを福祉に特化した理念を植え付けていこうという考えのものです。その先には介護福祉学校の入学、もしくは福祉に特化した教育を受け各家庭で活かしていただきたい。なぜかという、一昨年栗山町ではケアラー条例を打ち出しました。この理念というのは、実践もそうですが各家庭でも活かせる内容となります。もっと進んでいくと介護学校へ行きたい、専門的にやりたいといった子供については、旧ヘルパー2級が取得できるように進めていきたい。これは高校3年間の105時間では免許は取れません。1年半の期間の中で130時間こなさなければ取得できないものであることから、介護福祉学校とよりタイアップをして取得を進めていただく。なおかつ、介護福祉学校への入学を推進していくこととしています。これが公約8ページ「産学官連携のコンソーシアム連携組織を設置し、栗山高校・介護福祉学が連携する教育モデルを充実します」の内容のおおきな流れとなっております。その上の継続推進というところでは国語・算数・理科・社会という教科、教科替え、生徒指導等があります。先ほど言ったキャリア教育、主要教科外の教育課程と言いますが、それも含めてすべて連携させていくという考えがもとになっています。それぞれの学校がより今まで以上にスリム化して、それぞれの時間数を生み出しながら繋げていくといったことが一貫教育という言葉となります。もう一つ女子野球に特化したところとなりますが、現在2人ということですが、7

月 18 日に女子野球の体験教室を行います。現在 15 名弱の方から参加したいという声があがっています。それ以外に札幌からも興味があるという声もあり全道各地からも高校へ問い合わせが来ている状況です。そこで高校の校長先生と私でまず空知管内の全中学校を回っています。それ以外に本州の方からも声がかかっているところがあります。具体的には長野県と茨城県それぞれ 1 名ずつ声がかかっています。まずは監督に出向いてもらい、話が進んでいけば校長先生にも出向いてもらい高校の説明、女子野球の内容をしてもらうこととして獲得に向けて回って歩いているところです。それと、本日道教委へ教育課程の話もしてきました。6 月 2 日の日に通知がおりて 9 日に提出ということでありましたが、高校 3 年間の教育課程の教育方針・中身、時数の内容を全て道教委へあげてもらっており、その申請も通りました。来年度からその方針で授業をこなしていくことになります。そこに向けて小中が高校で行う授業に向けてどういう内容でやっていくかを今後深く掘り下げていきますが、すでに小中は介護学校と連携を行っており、そのことを土台にしながら高校の授業にどうつなげていくかを決定していく時期となっております。女子野球の部分につきましては、先ほどお話した福祉に特化した教育について承認がもらえないと全国公募ができなかったが、今回申請が通りましたので栗山高校の特色として来年度、全国に生徒募集の公募をかけます。旭川の明成高校が女子野球部を立ち上げるということなので、北・中空知にも積極的に回っていかなければならない。我々としては空知の子は空知で育てようというスローガンに掲げながら推進していきたい。公立としての魅力は進学にあり、国公立大学進学に向けて子供たちをしっかりとサポートする体制を構築している最中であります。来年から、栗山高校では一人でもやりたいという方がいれば部活として認めてもらえるように変更してもらいました。現在高校では 13 名の教職員で成り立っていますが、全ての方が教えられるわけではありません。そうすると地域の各連盟など、まちがしっかりと連携・サポートしていく必要がある。例えば卓球部をつくった場合、教える先生がいなかった時には卓球連盟など地域との連携として深く関わっていけるように教育委員会としても整理していきたい。

町民：長沼町で一貫教育として新設される北長沼小学校では、長沼以外にも広範囲に募集をしていると聞か教育委員会としてはどう把握されているか。また、子育てについてですが子育てで人口を増やしている市町村は相当の予算を付けている。子育てしやすいまちづくりを推進している町としては、予算が少ないのでは。もっと予算をつけないと人口増に繋げるにはなかなか難しいのではないか。

教育長：北長沼地区でこれから開設される小学校、そのあと中学校も開設されるという話を聞いておりますが、その部分については私立ということもありまして、栗山町としては何か連携するということは今のところ考えておりません。栗山町の子供もたちは栗山町で育てたいと考えておりますし、長沼町自身もそこと連携して何か事業を起こすということも聞いておりません。

町長：色んな自治体の子育てに力を入れて、相対の人口が決まっている中でいろんな政策を打っているというのが実態であります。そんな中で栗山町も過去から色んな子育て支援策を講じてきて、特に他の自治体でも 18 歳までの医療費無料化がされていますが、10 年以上前に栗山町では先駆けて行っている。今は横並びとなってきて同じような支援を行うようになってきています。そのような中でどの程度まで子育てに力を入れていくかは全体の財政のバランスもありますので、重点化していかなければならないという思いはありますが、少しバランスをとりながらこれからどのような子育て支援策がよいかを考えていきたいと思っております。環境として栗山町は子育てしやすい環境で

あると思う。幼稚園・保育所もあり、子育て支援センター・児童センターもあり、若いお父さんお母さんが子育てをするなら栗山と言っている方もいます。あとは中身をどう他の地域と差別化していくかということもこれから勝負になってくると思います。そんな中でいま検討しているのが、18 歳までの医療費無償化をやっていますが町外の通院については対象外としている。地域医療協議会の方とも色んなお話をしましたけれども、そこも無料化したらどうかというご提言もいただいております。他の町ですでに実施しているところもありまして、色んな声があると聞いていますので、ぜひ 7 次総合計画のなかで検討をさせていただきたいと思っております。